



議会だより

No.142 2023.7.14 発行

し
の
こ
え

表紙 ヒゴタイ

- 補正予算ピックアップ…………… P2
- 付託外議案審議、議案リスト …… P3
- 各常任委員会審査報告 …… P4
- 特集記事 …… P5 ~ P7
- 一般質問 (7名) …… P8 ~ P14
- 傍聴者の声・アンケート …… P15

裏表紙 バトンをつなぐ (飯田)
編集後記

令和5年第2回定例会

本定例会は6月9日から6月22日までの14日間開催されました。
専決処分を含む報告3件、議案3件、請願1件、発議1件を慎重に審議しました。

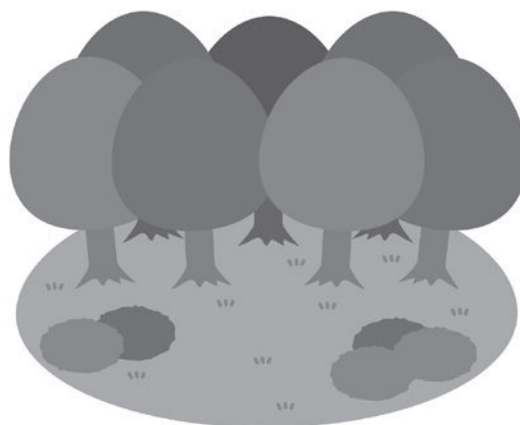
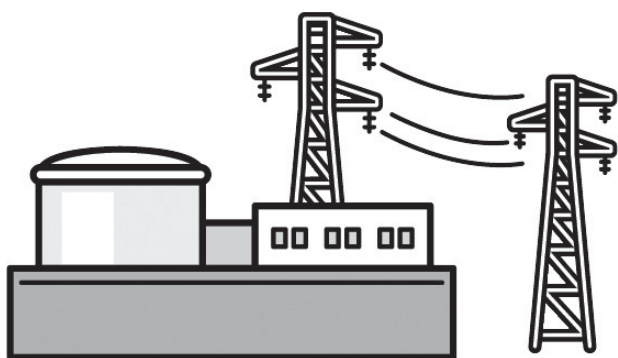
令和5年度 一般会計補正 予算(第2号)

補正前の額	85億8,412万円
補正額	3,995万9千円
補正後の額	86億2,407万9千円

◆ 補正予算の主な内容

歳入	増額 国庫支出金	
	○新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金	699万1千円
	○新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	6,556万円
	減額 県支出金	
	○森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策事業補助金	5,240万円

歳出	増額	
	○電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金	5,400万円
	減額	
	○森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策事業補助金	5,240万円



第2回九重町議会定例会 「令和5年6月9日～22日」

議 案 一 覧			
議案番号	件 名	付 託	結 果
報告第1号	専決処分の報告同承認を求めることについて		承認
報告第2号	令和4年度九重町一般会計繰越明許費繰越計算書について		
報告第3号	令和4年度九重町一般会計事故繰越し繰越計算書について		
議案第37号	訴えの提起について		可決
議案第38号	令和5年度九重町一般会計補正予算（第2号）		可決
議案第39号	工事請負契約の締結について		可決
請願第1号	少人数学級推進・複式解消など定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元および制度の拡充に係る意見書の提出に関する請願書	教民	可決
発議第2号	少人数学級推進・複式解消など定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元および制度の拡充を求める意見書について		可決

教民：教育民生観光常任委員会

専決処分とは

本来は議会が議決すべき事柄を、時間的に議会の招集を待てない緊急な場合などに、行政運営の遅れや滞りを防ぐため、例外的に首長が議会の議決に代わり意思決定することです。専決処分をした場合、首長は次の議会で報告し、その承認を求めなければなりません。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止策に関する補正予算、各種交付金・特別交付税の交付決定等に伴う予算補正、地方税法や国民健康保険法施行令の一部が改正されたことに伴う条例改正です。

補正予算

- ・令和4年度九重町一般会計補正予算（第18号）
※地方交付税等
- ・令和5年度九重町一般会計補正予算（第1号）
※低所得者の子育て世帯生活支援特別給付金等

改正された条例

- ・町税条例
- ・国民健康保険税条例



繰越明許とは

何らかの事由により、当該年度に支出が終わらない見込のものについて、議会の議決を経て、翌年度に繰り越して使用できる制度です。

昨年度には繰越明許費の上限を承認しており、今回は財源を含めた詳細が報告されました。



繰り越しとなった事業の一例

- ・九重文化センター空調設備改修事業
- ・九重文化センター音響設備改修事業



「空き家対策」についてR5年3月に法律が改正されました!

主な改正点

(1) 所有者の責務強化 (2) 空き家等の活用拡大 (3) 空家等の管理の確保 (4) 特定空き家等の除却等
特に(3)の管理不全空き家の指導勧告が最も大きな改正であり、固定資産税が約6倍になる可能性があります。空き家を抱える方々や空き家のある行政区の方々は、今後町からの情報発信には十分ご留意の上、早期の解決にご協力ください。

徳島県阿波市のアイ・エス・フーズ徳島株式会社との企業参入協定を締結しました。

事業計画内容

事業開始 令和7年4月

【栽培品目】青ネギ 【栽培地】九重町大字町田3228-33 【栽培規模】令和7～8年度 2ha

【売上高】令和7～8年度 3,000万円 【雇用計画】令和7～8年度 従業員2名 パート10名

大分県農業農村振興公社(農地中間管理機構)の有効活用について

令和5年度の農地中間管理事業の推進指針(大分県HPより)

平成26年度から農地中間管理事業を活用した農用地の集積に取り組み、令和5年3月末での機構の借受面積は5,200haを超えるなど、大きな成果を挙げています。一方で、農地の受け手となる担い手の高齢化や新規担い手不足など喫緊の課題を抱える中、将来に向けて地域農業を守り健全性を保つために、意欲的な担い手への農地集積は避けて通れない重要な課題であり、当機構としても県、市町とさらに連携を強化し、農地中間管理事業の活用促進を図ります。

遊休農地や耕作放棄地を抱える方々の悩みに全て応える事は無理かもしれませんが、相談する価値はあるのではないかと思います。

少人数学級推進・複式解消など定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元および制度の拡充に係る意見書の提出に関する請願書

大分県教職員組合玖珠支部 執行委員長 牧一統氏、玖珠郡PTA連合会 会長 重松悟氏、外 九重町小中学校PTA会長一同、からの請願です。

学校現場では、収束の見通せない新型コロナウイルス対策や、貧困、いじめ、不登校など課題が山積している状況です。子どもたちの教育環境改善には、少人数学級を推進し、複式学級を解消すること、教育の機会均等と水準の維持向上には、義務教育費国庫負担割合を2分の1に復元する等制度の拡充が必要です。本請願の趣旨は理解できるため、採択し、国の関係機関に意見書として提出します。



「意見書の要望事項」

1. 教育環境改善のために、計画的な教職員定数改善を推進すること。とりわけ、中学校・高等学校での35人学級を早急に実施すること。
2. 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元すること。
3. さらなる少人数学級を推進するとともに、複式学級を解消すること。

常任委員会視察研修報告

総務建設産業常任委員会（5月15日～17日）

委員長…岐部俊哉 副委員長…野上香代子 委員…菅原美好・有吉富生・土井眞一郎・佐々木信介

視察研修先：①埼玉県秩父市・小鹿野町 ②茨城県那珂市

①樹液生産協同組合・メープルベース

視察研修目的：

本町も水源の涵養と温暖化防止に貢献するだけでなく、78%の林野率を誇る町内の森林資源を有効かつ経済的に活用する方策を探るため。

秩父市と周辺4町については、伐らない林業を標榜した森林の整備と管理をしながら、カエデの樹から樹液を集め、国産のメープルシロップを生産販売しており、小鹿野町にはアンテナショップとしてメープルベースがあります。その他樹木の皮から漢方薬を生産する等、伐採と植林を繰り返すだけでなく、山を守り山の恵みを生かす

林業を実践してきています。



視察研修内容：

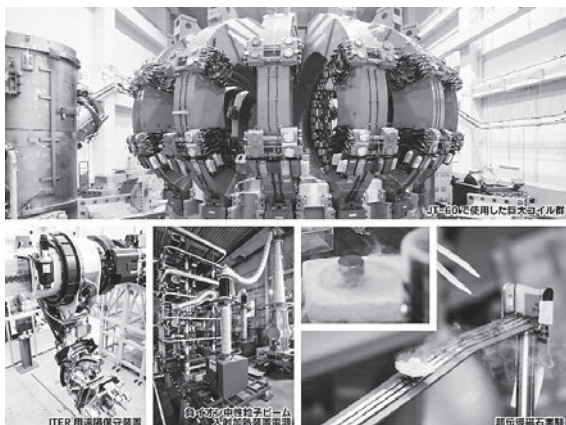
2016年にオープンしたメープルベースのカフェにて、2012年から森を守ってきた樹液生産協同組合の島崎武重郎専務理事を中心に、秩父市と小鹿野町の職員、更に2014年に秩父にUターンして地域プロデューサーとなった井原愛子さんとの意見交換会を行った。森林を守るためにGPSを用いて秩父の森のカエデの樹を森林地図にプロットしていくことや幼木の保育よりも5経年木を移植するほうが獣害を受けないなど実践してきた活動の生の声を聞くことができて非常に有意義でした。また井原さんの活動はさらにアグレッシブで樹液をシロップにする機械をカナダまで買い付けに行くなど垂涎の的でした。この組合やメープルベース更に井原愛子さんの活動は広くネットに公開されているので興味関心のある方は是非検索してみてください。

②量子科学技術研究開発機構那珂研究所

視察研修目的：

地熱発電で日本一の発電量を誇る町で、国のこれからのエネルギー生産体制の変化に備え、これからの地熱発電についてその可能性と限界を探るため。

茨城県那珂市については、国の量子エネルギー部門那珂研究所があります。ここはフュージョンエネルギーの世界最先端の実績を有する研究所であり、この研究が進めば核分裂で行っている原子力発電から核融合のエネルギーを用いた発電が可能となります。



視察研修内容：

毎週火曜日13時45分からある公開見学の時間での視察となりました。鹿児島県出身の花田所長よりパワーポイントでの詳細な説明と質疑応答の中で、世界に冠たる研究が湯川秀樹ノーベル物理学博士より脈々と受け継がれ、最先端の研究に世界中から研究者が集まっていることに感激しました。その後施設内でそれぞれの研究者より説明して頂きましたが皆明るく情熱的な説明でした。国もこの研究を前倒して支援し、2030年には大きなイノベーションが起きると確信しました。地熱発電の役割を再考する良い機会となりました。

教育民生観光常任委員会（5月24日～26日）

委員長…岩尾茂樹 副委員長…大津留敏加 委員…増田裕子・佐藤明郎・矢野春美・河野克輝

1. 静岡県三島市 三島スカイウォーク

民間の所有、経営による大吊橋を核とした観光施設です。土産物店やロングジップスライド等のアクティビティが充実しています。社員が運営しているのでイベント等も多く、“夢”大吊橋と比べると関連施設の多さや経営・運営等に違いがあります。九重町も“夢”大吊橋を最大限に活用するためには、経営、運営を民間に長期委託し、施設のリニューアルや周辺地域の再開発、他の近隣施設との連携等までも任せられることも一つの方法ではないかと感じました。また、吊橋のある他の市町村と協議会等を設置し、連携することで観光振興等を図れるのではないかと考えます。



2. 静岡県三島市

三島市立坂小学校（小規模特認校）

市内に14の小学校があり、ほとんどの学校の児童数が300人台から600人台である中、坂小学校の1校のみが70人強の小規模校です。通常の通学区域に関わりなく市内全域から通学できる小規模特認校となっています。児童の半数程度が通学区域外から通っています。小規模校ならではのカリキュラム（農業体験学習等）が充実しており、学力も他校と比べ遜色ないようです。

地元住民の要望により統廃合せず存続させているので、住民が学校に非常に協力的です。学校の在り方は色々あると思われそうですが、通学する学校を選べることも在り方の1つであると新たな認識を持ちました。



NPO法人
母力向上委員会

3. 静岡県富士宮市 子育て支援事業

「ベビーステーション事業」は市とNPO法人が協働で行う事業で、登録したコンビニ、公共施設、その他民間施設でミルクのお湯提供や紙おむつの販売、おむつ交換ができる等のサービスが利用できる事業です。

「ハハラッチ事業」は同じく市とNPO法人が協働で行う事業で、講習を受けたお母さんがライターとなって独自取材し、子育てをしているお母さんが知りたい情報をホームページを通じて発信している事業です。

これらは主にソフト（こころ）事業であり、子育て中のお母さんが外出する際に安心して出かけられるようメンタル的に支援する事業です。子育て支援として非常に有効で良い事業と考えますが、成功のカギはどちらの事業でも協働しているNPO法人母力向上委員会の存在であると思われまます。九重町においても有効な事業であると思われまますので、子育てに理解のあるNPO法人等の組織の設立が望まれます。



農業委員会との意見交換会

4/26

去る4月26日役場会議室において、農業委員会との意見交換会が開かれました。

今回は農業委員会からの提案により、参加者が4つのグループに分かれて『農業と観光』をテーマに意見やアイデアを出しあっていくという形式で行われました。

ファシリテーターの進行により、各々思いついた意見、アイデアをひとつひとつ付箋に記入し、その中から、



似通った情報を分類、集約してグループの意見として文章化します。

最後に4つのグループ毎に集約、文章化した意見のベスト3を発表。その中で全体からの共感が多かったベスト3は、

- 1、農業とテーマパーク
- 2、地産地消とアンテナショップ
- 3、農業収入増と後継者確保

観光PRと環境整備（同票3位） でした。

農業委員会の方々とも楽しくコミュニケーションが図れました。

6/29

日出生台演習場対策特別委員会活動報告

演習場周辺地域(野倉・田尻・中須・平家山)住民の方と意見交換会を行いました。

6月29日(木)18時半より、田尻集会所にて演習場周辺地域の住民の方に集まっていただき意見交換をしました。

近年、コロナ禍の影響により、お出かけ議会をはじめ地元へ赴いての意見交換の開催は困難となっていました。今回、実際の生の声（意見）を聞かせていただき、委員にとって有意義な時間となりました。

農地の防除対策は出来ているが、山林は伐採後、植林しても食害等の被害が多く木が育たない。等、有害鳥獣対策をはじめ、特定防衛施設周辺整備調整交付金、水問題など、さまざまな意見、切実な想いをいただきました。

想いを受け止め、今後の活動（調査・研究）に活かして行きたいと思えます。

特定防衛施設周辺整備調整交付金とは？

防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第9条を活用した事業であり、防衛施設周辺地域の生活環境改善等のために交付される国から町への支援です。九重町でもコミュニティバスの車両の購入など様々な用途の事業に使われています。



町政を質す 一般質問

7名の議員が質問

遊休地と有機給食!町有林について!

…………… CO₂吸収量クレジット制度の活用、引き続き調査研究をしていきたい



矢野 春美

矢野 農水省『みどりの食料システム戦略』で有機農業、有機給食への取組み支援。全国的に有機給食への取組みの動きがあるが九重町の取組みは。

友松教育振興課長 今の段階で取組みとしてはないが、九重産、大分県産の物での地産地消の取組みを行なっている。

矢野 遊休地、耕作放棄地を有機給食への取組みに活用できないか。

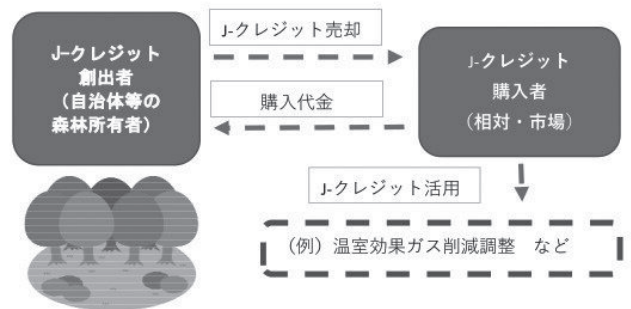
藤野農林課長 可能ではあるが地形や管理不全等で開墾、水、鳥獣害対策、大型機械の搬入等厳しく、利用者がいるかが課題。

矢野 昆虫食が他自治体で給食に提供され物議を醸した。安全性からも給食で子どもたちには提供してほしくないがいかがか。

友松教育振興課長 今の段階では給食で提供する事は考えていない。

矢野 町有林において、CO₂の吸収量を売るj-クレジット制度を利用して財源とし、町全体の森林保全に活用できないか。玖珠町、小国町も認証への準備をしているが…。

熊谷総務課長 有効な手段と考えられるが目標達成のハードルが高く現在実施に至っていない。今後、森林組合、行政、農林課と協議しながら、この制度活用について調査研究をしていきたい。



町有林の活用について

矢野 世界的脱炭素社会が謳われている中、九重町の豊富な森林資源活用を調査研究されているか。

藤野農林課長 CO₂吸収量について令和5年度に森林画像分析調査を実施し、密植状態など得られるデータを元に効率的な森林更新、手入れ作業が行われるよう情報提供をしていく。

管理不全空家について

矢野 3月議会で空家等に係る条例が制定されたがその後の対応は。

梅木危機管理・防災安全課長 昨年度、各地区空家の状況報告を現在精査している。九重町空家等対策協議会に諮った上で、特定空家等の判定、また危険度の判定を行い、助言、指導等、必要な措置、対応を図っていく。

岐部
俊哉



令和6年森林環境税導入が決まり、森林環境譲与税を活用した森林整備と管理! 今でしょ!!

…………… 森林組合等と協議の上、森林環境譲与税を有効活用して、管理と整備を進めていく

令和の時代を生きる! 第16弾 2023 6月 「人づくり」は「町づくり」

大分県内市町別森林譲与税額の推移と比較 (R4年度は未公表)

市町村	令和3年(千円)	令和4年(千円)	R3年度に実施した主な事業・事業費(千円)
日田市	172,908	230,488	森林経営管理制度推進24,520・切捨間伐下刈り等補助60,000 林道作業道材料支給39,124・木育推進2,713・木材利用3,458
佐伯市	125,554	180,212	森林経営管理制度推進14,580・間伐除伐下刈り補助33,576 林道舗装及び路網整備原材料支給55,962・木造公民館62,747
竹田市	45,384	62,026	公共造林上乘せ補助4,031・クヌギ林再生4,850・雇用補助3,085
豊後大野市	48,073	58,230	森林整備25,195・事業環境改善8,264・実行体制整備3,119
由布市	31,226	40,132	森林経営管理制度推進16,735・木造柵10,271
九重町	36,172	46,548	林地台帳地図データGISデータ整備+集落孤立防止里山事業+ 森林環境直接支援+負担金へ充当計7,219 基金28,952
玖珠町	33,999	44,336	林道整備9,730・意向調査業務委託7,205 基金積み立て33,999

岐部 令和4年度の森林環境譲与税の活用内容は町のHPに公表されているが、町民に説明責任が果たせる内容になっているか。

日野町長 令和6年より森林環境税として、町民から納税してもらう上で、活用の公表はこれまで以上に大きな問題として受け止めている。

藤野農林課長 もう少し詳細に記載することで町民の理解を深める事ができると感じている。

岐部 森林整備について、県のガイドラインには計画と組織作りが必要と記載されているが予定はあるか。

日野町長 森林組合と協議し計画と組織づくりについて税金の有効な活用となるよう考えていく。

岐部 人口の按分率が3割もある森林環境税の交付配分は、将来的に先細る事が推測される中、森林経営管理権を活用した整備の実績や今後の計画はあるか。

藤野農林課長 現在実績も計画もないが、未整備森林の整備に向けた取り組みを進めていく中で、経営管理権の設定についても検討する。

岐部 公益性の高い町有林の活用として、R4年に回

答もらった針葉樹だけでなく広葉樹との混交林への整備は進んでいるのか。

熊谷総務課長 山林の保全と水源地の確保は特に重要であり混交林へと取り組むことは考えているが、現行5か年の施業計画があり、今後特に防災・減災に結び付く所には予算を配分したいと考えている。

災害対応の広域道路計画やワンヘルスの理念の共有について

岐部 日田から庄内久住を繋ぐ広域道路の計画についての考えは。

日野町長 道路は命をつなぐものであり地元期成会等の活動を期待しつつ前向きに考えていく。

岐部 九重町でワンヘルス宣言をしてはどうか。

日野町長 活動実績を重ね、理解を深めることで機運も盛り上がっていくと思われる。動物と人と環境を総合的に考える時代となっていることは間違いない。

農林畜産業の振興について

(畜産・酪農に対しては基盤整備や省力化等への支援と同時に、今は現状維持、事業継続のための支援も考えるべきではないか)

…………… 飼育負担の軽減を図るためキャトルステーションの建設を実施するが、1頭当たりに対する補助等の支援は、対象頭数が多いのである程度絞った形での支援をしていく



岩尾 茂樹

農林畜産業の振興について

「小さな農業者」を育てる取り組みを検討するとは

岩尾 検討する理由と内容は。

藤野農林課長 農地の遊休化を防ぐため農業者の確保が必要であり、専業農家でなく副業として農業をする人等に対する栽培方法や販売方法等を検討する。

岩尾 具体的な実施時期の計画はあるか。

藤野農林課長 ハボタン、自然薯栽培については既に支援に取り組んでおり、遊休ハウスの再活用支援事業も実施している。

畜産、酪農に対する支援は

岩尾 具体的な方針と補助に対する利用予定、申し込み等の状況は。

藤野農林課長 基盤整備や省力化、増頭等の支援を行う。利用状況は毎年ほぼ100%、全額執行する状況である。

岩尾 今は、現状維持や事業継続のための支援も必要ではないか。(1頭当たりに対する補助金等)

藤野農林課長 キャトルステーションの建設等で飼育負担の軽減を図っていく。飼養頭数が多いので絞った形での支援を行う。

支援できることとできないことの区分は

岩尾 農業等に関して町が支援できることとできないことの区分はあるか。

藤野農林課長 明確な線引きはなく、必要な支援を行っていく。

時松副町長 その時々々の社会情勢、経済情勢や町の財源の状態によっても変わる。

有害鳥獣対策の更なる強化は

岩尾 金網柵や鹿ネット、電気柵の併用や二重、三重設置の支援を、条件なしで認められないか。

藤野農林課長 県の補助要件があったり予算の問題もあるので、条件の中で支援していく。



金網柵の中にある電気柵

捕獲報奨金の支払いを複数回に

岩尾 報奨金の支払いを複数回に増やせないか。

日野町長 猟友会の要望があれば柔軟に対応していきたい。

財源の確保について

歳入を増やすための施策と見込み額は

岩尾 新年度予算では歳入を増やすためにどのようなことを検討したか。

熊谷総務課長 既存の財源を確保していくことが重要だと考えている。使用料についても集客に努力し増額の予算計上をしている。

岩尾 大吊橋等の使用料の値上げやネーミングライツ等の導入も検討すべきではないか。

熊谷総務課長 大吊橋については、観光の起爆剤としての利用を図ってきたので使用料を据え置いている。既存の財源の確保、有効的利用を図っていく。

佐藤
明郎



令和2年豪雨耕地災害、復旧に格差

…………… 状況が分かり次第検討する

佐藤 被災後、早急に出来た工事と3年待っていた工事では、急激な物価高騰により、人件費、材料費と大きな変動が生じていないか。

武石建設課長 人件費でいえば世話人役で9.7%、生コン関係では付随した製品関係は2割以上、条件にもよるが平均して13%の価格変動である。

佐藤 説明に基づけば、当然地元負担も1割以上の格差が生じる。耕作者に何の責任もなく、待たされた上にこの状態では不公平感を生じないか。

武石建設課長 最終的に差が生じる。その対策も含め工夫し、申請者の負担を増やさない努力をしていく。

佐藤 自然災害と物価上昇がもたらしたこの格差、上昇分だけでも行政で何とか考えられないか。

日野町長 担当課も努力してはいるが、差は出ているわけで、謙虚に受け止める。

指摘の件については、状況が分かり次第検討する。

公共施設の維持管理

佐藤 基本計画では、鉄筋性の丈夫な施設でも、屋根、外装は20～30年で改修が必要と明記されている。本庁舎も2年後には築30年になるにもかかわらず未だ計画すら無い。工事中の来庁者の対応、職員の仕事場は、大がかりな準備が必要と想像するが。

熊谷総務課長 指摘の通り、間もなく30年。それまでにしっかり改修計画も含めて作りたい。



公共施設の維持管理費は莫大

小学校は現状規模が必要か

佐藤 人口は減り、行政に対するニーズは逆に増える。町民の生活インフラを堅持するためには、公共施設の維持管理、負担を軽減することは、次世代に対する大きな責任である。教育委員会は小学校6校維持を打ち出したが、施設的に現状の規模が必要なのか。

時松教育長 児童数の減により学校規模を縮小するとは一概には言えない。学校が地域コミュニティの拠点との観点も含め総合的に判断する。

佐藤 計画では大規模改修を現規模のまま行うことになっている。将来負担を考え、再考する可能性はあるのか。

友松教育振興課長 国の補助金の問題とは別に教室の必要数も含め、学校現場、あるいは関係者と協議したい。

行政区ごとの危険箇所の把握は

…………… 各地区の消防団が、町内において、新規災害危険箇所の調査をし報告を受け、5月に防災パトロールを実施している



野上 香代子

防災・減災

野上 自主防災組織の進捗状況は。

梅木危機管理・防災安全課長 自主防災組織としての位置づけは行政区単位で各行政区において防災士の取得や避難訓練の推進を図っている。

野上 町内の防災士会の数は。

梅木危機管理・防災安全課長 東飯田と南山田に防災士会が設立されている。

野上 防災士の活動状況は。

梅木危機管理・防災安全課長 各地域の防災マップ作りや研修会を行っている。

野上 要支援者と行政区長との連携は。

竹尾健康福祉課長 区長は福祉委員も兼ねており、(防災・減災にもつながる)「支え合いの地域づくり」で特に重要な役割がある。「支え合い助け合いマップづくり」もそのきっかけになる。民生委員との連携も重要であり、両者の意見交換会も毎年実施している。

野上 災害備品の点検は。

梅木危機管理・防災安全課長 食料は消費期限があるので随時行っている。物品の確認は、消防団に月に1回確認、報告を頂き補給、対応を図っている。

ケーブルテレビのデータ放送

野上 データ放送の更新状況は。

松尾情報デジタル推進課長 令和4年度データ放送の掲載実績が468件。

野上 現在発信されている情報が、見る人に必要な情報と捉えているか。

松尾情報デジタル推進課長 必要であると考えながら、九重町ケーブルテレビ放送運営委員会の意見等を頂き、データ放送の項目について実情に即した内容となっているか、見直し等も含めて改善を図る。

野上 緊急時にデータ放送は対応できるか。

松尾情報デジタル推進課長 台風接近等に伴う注意喚起等、気象庁ホームページへの案内等、町が発信元として確定できる情報については、今後もしっかりと対応する。

泉水キャンプ場

野上 泉水キャンプ場の長寿命化計画は。

吉光商工観光・自然環境課長 令和3年度に、九重グリーンパーク個別施設計画を策定している。

野上 新しい設備投資の考えは。

吉光商工観光・自然環境課長 新たな設備投資の考え方という部分については、まずは九重グリーンパーク個別施設計画を基本に、現有施設を改修、修繕を計画的に行い、最小限の投資で最大限の効果が得られるような全体計画を検討する。



デッキが腐敗して使用できないロッジ

コミュニティスクール

野上 コミュニティスクールの実情は。

友松教育振興課長 新しい生活様式の中で、感染予防対策を十分しながら、コロナ禍前の学校間の交流を考えている。

野上 学校と地域のつながりは。

友松教育振興課長 地域の方が学校行事に参加したり、学校が地域や町の行事に参加したりして、それぞれ活動を披露する等、双方向のつながりが深まれば良いと考える。



地域と繋がる運動会

災害復旧状況

野上 災害で未だ作付け出来ない耕作地面積と耕作者数は。

武石建設課長 面積約2.7ha。耕作者23名。

大津留
敏加



消防団活動の現状と課題

…………… 若年層の減少、団員は定員を下回っている

大津留 団員の減少に対する課題は。

梅木危機管理・防災安全課長 人口の減少が基因と考える。本年度、各部にアンケート調査をした結果、訓練等が多いという傾向があった。訓練の簡素化の取り組みを行うなど、消防団と協議をする中で、新たな入団者を求めたい。

大津留 消防車両の運転手の確保と準中型免許取得の助成の考えは。

梅木危機管理・防災安全課長 町内の消防車両29台の内、8台が準中型自動車免許を必要とする。準中型自動車免許取得の公費助成については1つの考え方であり、消防団と協議をしていく。



準中型自動車運転免許証を必要とする車両



飼料米(採卵鶏用)を作付けした水田

町内4か所に設置している雨量計の情報発信について

大津留 高齢者等に分かりやすい情報発信を。

梅木危機管理・防災安全課長 町内の野上川水系は小平谷集会所、鳴子川水系は東部集会所、町田川水系は菅原集会所、松木川水系は田尻集会所の4か所に雨量計を設置している。インターネット、町の広報にて周知をしている。現在、認知度が低調であり、ケーブルテレビ、また広報にて周知を図っていく。

飼料米(採卵鶏)の推進について

大津留 全国農業協同組合は、昨年5月養鶏の採卵鶏向け配合飼料に含まれる穀物を全て飼料米に置き替える技術の特許を取得した。採卵鶏飼料のほか、いろいろな家畜飼料に飼料米を入れると報道があり、飼料米の需要が見込まれるが町の取り組みは。

藤野農林課長 九重町農業再生協議会にて、国の設定する戦略作物助成、また県の設定する産地交付金を活用し推進を行っている。飼料米について、農業者に対しての情報の提供と支援に努める。



鳴子川水系の東部集会所に設置された雨量計

コミバスの有効な活用を!



増田 裕子

……………今年度中に公共交通計画を策定し、実施していく

増田 現在コミバス等公共交通にかかる年間の予算はどのくらいか。

小田まちづくり推進課長 コミバスでは、交通協議会負担金とし3,870万円を支出。コミバスの運行経費は、車両運行経費（燃料・修繕・運行委託等）4,945万円等、およそ5,700万円ほどかっており、運行収入は787万円となっている。

コミバス以外では、バス路線運行補助金として1,865万円を支出。

これらについて国・県からの公共交通への補助金や過疎対策事業債の地方交付税措置を相殺すると、町の負担は、およそ2,100万円ほどと考えられる（千円以下省略）。

過疎対策事業債とは

過疎地域とされた市町村が、計画に基づいて行う事業の財源として特別に発行が認められた地方債。充当率は100%であり、その元利償還金の70%は普通交付税の基準財政需要額に算入されることとなっている。

増田 栗原小園線は、町内で唯一デマンド方式という形で運行しているが、利用状況は。

小田まちづくり推進課長 予約があった場合に、特定の曜日と区間のみ運行する乗り合いタクシーで、8行政区間（後野上・猪牟田・陣ノ内上下・栗原・川東上下）が対象。利用者は年々増えている。

利用実績

年度	H30	R1	R2	R3	R4
人	56	28	50	80	152

増田 コミバスの運行体制を見直して、加えて各地区ふれあい食堂や祭り等のイベントに合わせたデマンド運行は考えられるか。

時松副町長 町全体の地域交通としてのコミバスは、公共交通として路線定時運行型を見直す時期には来ている。交通協議会でしっかり検討していく。イベント等への利用は、次の段階として考える。

防災・減災対策、町として新たな取り組みは

梅木危機管理・防災安全課長

昨年度、避難所に液晶テレビやWi-Fi設備を設置した。

R2年から、一部の他市町村と共に、AIや衛星データ、ドローン等の先端技術を活用して地域防災力の向上を図る取り組みも行っている。

ラインの公式アカウント九重町



登録しよう!

4月に就任された教育長の抱負を伺う

時松教育長 学校教育と社会教育は車の両輪。これまでの経験を活かしながら、九重町みんなの先生として力を尽くす。誰もが夢や希望を持って住み続けたい町、学び続けたい町となるよう教育施策を展開したい。

増田 九重町は、このえ学園構想として、少人数校の良さを維持しながら同時に集合学習や協調学習、つながり学習等々切れ目のない教育課程に取り組んでいることは誇りだ。これからの教育課題の設定と進む方向性は。

時松教育長 学校教育で①教育環境の維持、②教育の充実と機会の保障、③教員の労働改善。

社会教育で①若年層、特に高校生サークル活動促進、②地域学習の拠点づくり、③文化活動の振興と歴史をつなぐ。生涯学習社会の実現を目指す。



このえ学園構想のもと、楽しく学ぶ子どもたち

傍聴者の声



相沢 加代子さん

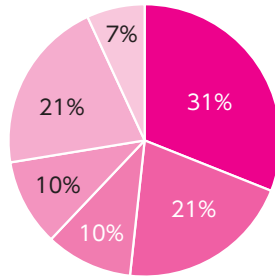
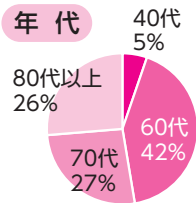
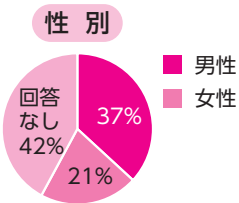
飯田地区まちづくり協議会では活動の一つとして町議会定例会一般質問を傍聴します。コミュニティバスへの理解、利用促進の目的で、飯田から役場までバスに乗って行きます。私は昨年、4回の定例会中、3回傍聴しました。一般質問では議員さん方がその時々町の課題等について質問をされ、それに対する行政側の答弁。綿密な準備をされて臨まれていることが伺えます。そして、町政にどのように反映されるか注目します。地域の議員さんに、日々の暮らしで疑問に思ったことや要望を届けるようにもしています。

令和5年6月議会では、時松栄子新教育長が答弁され、教育長として「九重町の中学校の子どもたちみんなのせい」として教育行政を進めていくと言うことばに感激しました。九重町の未来を担う子どもたちが元気に健やかに育っていくことを願うばかりです。

私は、縁も所縁も無い九重町に熊本から移住してきて35年、飯田高原で宿&キャンプ場&八百屋を家族で経営してきました。くじゅう登山が縁で、飯田高原を選んで暮らすようになったわけですが、魅力的な自然の中、知り合ってきた素晴らしい人々とずっとここで暮らしていきたいと思っています。

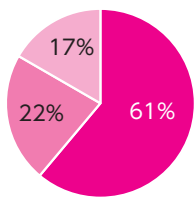
今は、これまでの子育ての経験を生かし、子育て支援や高齢者等の支え合いの活動に参加しています。住み慣れた飯田に安心して暮らし続けられる支え合いの地域を作ることを目的とした「くらしのサポートセンター飯田」が5月28日に設立となりました。引き続き地域に関わっていきたいと思っています。

傍聴者アンケート



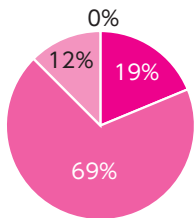
傍聴動機

- 1 議会に興味があるから
- 2 町政に興味があるから
- 3 応援している議員が居るから
- 4 一般質問の内容に興味があるから
- 5 地域の取り組みとして
- 6 その他



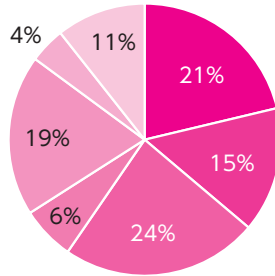
議会だよりを読みますか

- 1 毎回必ず読む
- 2 関心のあるところだけ読む
- 3 たまに読む



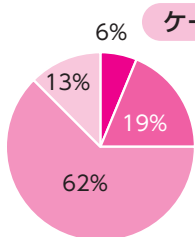
会議内容の理解

- 1 よく理解できた
- 2 概ね理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった



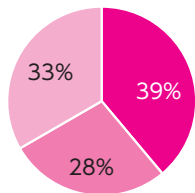
議会・議員に期待すること

- 1 町政のチェック
- 2 議論の活発化
- 3 積極的な政策提案
- 4 議員の資質向上
- 5 町民の声の反映
- 6 議会だよりの充実
- 7 情報発信



ケーブルテレビで一般質問は見ますか

- 1 毎回全部見ている
- 2 関心のある放映だけ見る
- 3 たまに見る
- 4 ほとんど見ない



また傍聴に来ますか

- 1 ぜひまた来たい
- 2 一般質問がある日に来たい
- 3 興味がある議題があるとき来たい

アンケートにご協力いただきありがとうございました。いただいたご意見は、議員全員で共有いたします。



第18回

飯田ふれあい夢食堂



飯田ふれあい夢食堂代表
森 八重子さん

大雨の災害が無いように、みんなでてるてる坊主を作りました。



今回は、飯田ふれあい夢食堂代表の森八重子さんにお話を伺いました。

夢食堂を始めたきっかけは、昔は地域での交流が盛んでしたが、近年交流が減り淋しく思っていた所、飯田以外の食堂が立ち上がったたり、若いお母さんからの「あったらいいな!」の声を聞き「飯田でもやりたい!」と思い、民生委員さんに相談し社協さんの力を借りて立ち上げました。

色々な方に声をかけ協力していただいたり、どんな事をやろうかと悩んだり、事前準備に追われたりと大変でした。当日になると2歳から90歳までの多くの方が集まり歌を歌ったりレクリエーションでお年寄りが子どもたちに作り方を教えたりと、みんな笑顔で過ごしてくれている風景を見てとても元気をもらいました。ボランティアは女性だけではなく多くの男性も協力していただけるので、やりたいことの幅が増え今後は流しそうめんや焼き芋などを計画しています。

飯田ふれあい夢食堂は、全世代が交流できる素敵な場所になっています。

議会だよりについて
ご意見をお聞かせください。
【議会事務局：76-3814】

令和5年7月14日

発行/九重町議会 編集/議会広報特別委員会

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1

☎ 0973-76-3814 ・ FAX 0973-76-3809

メール(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

編集後記

令和5年も早いもので半年が過ぎました。

田植えも終わり農家の皆さんも一息入れているのではないかと思います。3年前の豪雨災害でホタルの数もめっきり減っていました。今年はいろんな地域から増えたと声が聞かれ、安心しておりましたが今年も豪雨に見舞われ心を痛めています。

この3年間災害対応に追われて町民の方も大変だったと思いますが、復旧が早急に進むことを望みます。

これからも広報委員会では皆様が議会に興味をもち、読みやすい議会だよりを目指し取り組んでいきます。

よろしくお願い申し上げます。
土井真一郎

- 広報委員長 野上香代子
- 副委員長 土井真一郎
- 委員 岩尾 茂樹
- 委員 岐部 俊哉
- 委員 矢野 春美
- 委員 河野 克輝